

成果検証報告書

【成果指標の達成状況】

成果検証実施年度 4 年度

市町村名	久喜市					
提案事業名	地域の魅力再発見・未来共創事業					
事業期間	令和3年度 ～ 令和3年度					
成果指標	(成果を検証する指標) イベント参加者向けに実施するアンケート結果					
	(成果検証の具体的な方法) イベント参加者向けにアンケートを実施し、本イベントを通してSDGsに対する理解が深まったと回答した参加者の割合を分析する。					
	(成果の目標値に対する実績)			達成度	A	
	従前値 (年 月時点)		目標値 (R3年11月時点)	50%	実績値 (R3年11月時点)	82%
	(施設建設等の場合の実績)					
	年間利用者数 (人)	(目標) (実績)		稼働率 (%)	(目標) (実績)	
住民への公表状況 及び特記事項						

【事業効果の整理・原因分析】

令和3年度 構成事業

構成事業名	事業効果	事業効果の概要及び原因分析
① 久喜市SDGs普及啓発事業	○	久喜市SDGs市民ワークショップ開催時のアンケートにより、SDGsに対する「理解が深まった」という回答の割合が8割を越えるなど、一定の効果が得られたため。
② 久喜市SDGs未来共創事業	○	ワークショップの成果物として、市民の方に久喜市SDGsマップを作成いただき、それを発表・公開したことにより、「持続可能な久喜市」のためにできることを共有することができたため。
③ 久喜市SDGsシンポジウム事業	○	慶応義塾大学大学院の高木超特任助教によるアプローチ講話や市内小学校における取組発表、まちづくりパネルディスカッションを開催し、市民のSDGsに対する意識の啓発を行うことができたため。
④	○ △ ×	
⑤	○ △ ×	
⑥	○ △ ×	

【成果検証の総括・改善策の検討】

実施事業について 十分に成果が認められた点	今後久喜市が市民と協働でSDGsを推進していくため、キックオフイベントとなる「久喜市SDGs市民ワークショップ」や「久喜市SDGsシンポジウム」を開催することができたため、SDGsの普及・啓発が十分に行われたと考える。
実施事業について 成果が不十分である点	コロナ禍での開催であったため、入場者数を制限したことから、更なる普及・啓発のための施策を考える必要がある。
成果検証を踏まえた 今後の改善策	本イベントだけでなく、継続的にSDGsの普及・啓発のためのイベントや施策を展開する必要がある。 広報紙を活用した連載記事の掲載など、対外的な発信を続けていく。

(記入上の注意)

【成果指標の達成状況】

・達成度(A・B・C)の判断基準は次のとおりとする。

「達成度A」 目標値に対する実績値の伸び率が80%以上の場合
実績値 \geq (目標値－従前値) \times 80%+従前値

「達成度B」 目標値に対する実績値の伸び率が60%以上80%未満の場合
(目標値－従前値) \times 60%+従前値 \leq 実績値 $<$ (目標値－従前値) \times 80%+従前値

「達成度C」 目標値に対する実績値の伸び率が60%未満の場合
実績値 $<$ (目標値－従前値) \times 60%+従前値

【事業効果の整理・原因分析】

・事業効果(O・△・×)の判断基準は次のとおりとする。

「事業効果O」 事業効果の発現が十分に認められる

「事業効果△」 事業効果の発現が多少認められるが、不十分な点がある

「事業効果×」 事業効果の発現がほとんど認められない